都市再生整備計画（第7回変更）

塩竈市中心市街地活性化推進地区

宮城県　塩竈市

平成26年12月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	宮城県	市町村名	塩竈市（しおがまし）	地区名	塩竈市中心市街地活性化推進地区	面積	226 ha

計画期間	平成 22 年度 ～ 平成 26 年度	交付期間	平成 22 年度 ～ 平成 26 年度

目標

将来ビジョン：海園都市・塩竈　～海と歴史のまち・美味しい食と文化のまち・海辺と暮らすまち～

大目標：　3ゾーンの拠点形成による魅力向上と地域交流拠点の形成、およびゾーン縁辺部の暮らしやすい住環境の形成

①拠点機能の強化によるまちのイメージアップ　②回遊性の向上と活性化支援　③安全で安心して暮らせる住環境の形成

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

・本市は県庁所在地である仙台市の北東16kmに位置し、北は日本三景の一つとして名高い松島町、南は多賀城の史跡で知られる多賀城市に隣接している。

・鹽竈神社や塩釜港を中心とした観光資源があり、平成20年度における鹽竈社参拝者は年間86万人、松島観光遊覧船利用者は年間47万人、マリンゲート塩釜入場者は年間99万人と、歴史的な地域資源を持つ観光都市であると同時に、県内でも有数の水産港湾都市として広く知られている。

・ 平成9年には本市HPが開設され、観光物産協会ホームページと連携を図りながら、地域情報発信の充実化を進めており、平成15年度は11万アクセス、平成19年度には20万アクセスを超えるなど年間アクセス数も年々増加してきている。

・ 港湾・漁港整備に伴い急速に人口を伸ばし、国勢調査における平成7年には63,566人まで増加したが、平成12年では61,547人、平成17年では59,357人と減少傾向を見せている。要因としては、本市の基幹産業である水産業において、国際的な漁業規制と水産資源の減少化、近年の不況下による消費低迷、観光客の減少などにより、衰退していることが考えられる。

・ このような背景を受け、平成13年に第四次塩竈市長期総合計画において、本市の将来都市像を「海・食・人が活きるまち塩竈」とし、平成11年に塩竈市中心市街地活性化基本計画、平成15年に塩竈ヴェネツィア計画を策定するなど、水産業から水産加工、また食産業への連携、食と地域資源を活用した交流都市を目指し、地域の持つ資源を最大限に活用し、問題課題把握、課題解決に努めてきており、平成14年度には「まちづくり総合支援事業」を導入し、都市計画道路北浜沢乙線の整備状況にあわせた高質空間化など計5路線について整備を行ってきた。また、海辺の賑わい地区土地区画整理事業を平成15年度から実施しており、港町の特殊性を活かした住宅・商店・事業所の再整備を進め、定住人口を定着するとともに、飲食業を中心とした商業・サービス施設の集積や個性ある便利で賑わいのある空間の創出などを図ってきた。

・平成17年度からは第一期都市再生整備計画を策定し、まちづくり交付金事業を実施した。本塩釜駅を中心として東はマリンゲート塩釜、西は鹽竈神社を含む87ヘクタールの地区を「歴史の香る環境型都心居住ゾーン」「駅前賑わい集積ゾーン」「海辺の賑わいゾーン」の3ゾーンに分け、3ゾーンを結ぶ中心軸の魅力向上と市街地回遊性の強化を短期目標に掲げ、せせらぎ・石畳風の歩道といった歴史的景観整備や塩竈の和歌を詠んだ古歌板の設置などによる塩竈の文化を感じられる空間整備を行うなど、中心軸として魅力ある道路空間を創出した。他にも、歩道や点字ブロックの設置・舗装の色による視覚的歩車分離などバリアフリー化の促進を行ったことにより、本塩釜駅へのアクセス性や安全性が向上した。

・ また、都市再生整備計画の各事業の実施にあたり、市民団体との連携なくしては効果の期待ができないという認識から、海辺の賑わい地区土地区画整理事業において、地元地権者で構成する「海辺の賑わい地区まちづくり推進会議」を立ち上げ、「海辺の賑わいゾーン」における土地利用等の合意形成や地区内での事業化を検討し、地区内にマンション建築や共同化ビル建築などが行われた。また、地域案内板整備事業においてまちづくり団体や障害者団体からなる「中心市街地サイン景観ワークショップ」を立ち上げ、鹽竈神社やマリンゲート塩釜といった主要観光施設へ誘導する歩行者用の案内サインを市内に設置した。この他にも3ゾーンの中心軸に位置づけた北浜沢乙線整備において、沿線住民が中心となり「鹽竈海道まちづくり研究会」を立ち上げ、町並みや景観を検討する会議を開き、日本風景街道に登録されるなど門前町にふさわしい整備を行った。また、中心市街地回遊性向上の社会実験においては、市内青年団体で組織する「塩釜市青年四団体連絡協議会」と連携し、鹽竈神社の表坂をライトアップするイベントや、食べ歩きイベント「おいしおがま」を開催し大きな効果を得ることができた。

・ 今回検討している「中心市街地活性化推進地区」は、旧中心市街地基本計画に基づく中心市街地エリア226haである。同計画において、第二期地区に含まれる第一期地区（87ha）は、「中心市街地形成のための中心軸」と位置づけられていることから、第一期において中心軸の魅力を向上させる整備を行い、今回の第二期において中心市街地エリア全体に効果を波及させることを目的として、計画エリアを拡大する。このエリアは本塩釜駅、東塩釜駅、西塩釜駅、塩釜駅といった市内4つの駅や鹽竈神社、マリンゲート塩釜などの主要観光施設、市役所、壱番館、公民館、市立病院といった主要公共施設を含む。本市の行政、文化、経済等、市民活動の中心となる地区であるが、古くに形成された市街地であるが故に、現代的な都市基盤整備が遅れており、駅周辺の駐輪場が飽和状態で不法駐輪が見受けられたり、歩行空間においても不連続、凹凸、傾斜、電柱などの専用物等の問題点も多く、バリアフリーなどの対応もされていない。

課題

第一期都市再生整備計画（平成17年度～平成21年度）において3ゾーンを結ぶ中心軸の魅力向上と市街地回遊性の強化を目標に、各ゾーンごとに魅力を高める土台をつくり、海辺の賑わい地区においては面整備等による新たな交流拠点が構築された。
第二期都市再生整備計画（平成22年度～平成26年度）においては、

・**【拠点機能の強化】**第一期で土台が形成された3つのゾーンと中心軸を包含する地区を**『地域中心核』**、拡大された第二期区域内に位置する塩釜駅周辺地区を**『地域交流拠点』**と位置づけ、ソフト・ハード両面の整備を更に進めることにより賑わいの回復や活力の創出を図るとともに、各拠点間の連携強化による整備効果の拡大や強化を図る必要がある。

・**【回遊性やネットワークの強化】** 鹽竈神社に代表される（歴史）観光資源を生かした活性化、および第一期で創出された海辺の賑わいゾーンにおける賑わいの継続、第一期の歴史的景観整備を沿線の路線にも拡大することによる景観の統一性の向上、拠点内や拠点間の回遊性の強化による効果を商店街を含めた第二期の区域全体にまで波及させ、交流人口の増加を図る必要がある。

・**【快適な住環境の整備】** 市民が安全で安心して暮らせるようにするために交通利便性やバリアフリー整備など、不足する社会基盤整備を推進し、住環境の充実および利便性の向上をめざす必要がある。

・**【官民協働のまちづくり】** 第一期で実施され好評を得ている各イベントを今後も継続して実施するために事務局体制を確立し、多くの市民団体の活動を有機的に結びつけ、住民も巻き込んだ地域一体となった官民協働のまちづくりを進める必要がある。

将来ビジョン（中長期）

将来ビジョンを『海園都市・塩竈　～海と歴史のまち・美味しい食と文化のまち・海辺と暮らすまち～』とし、第一期を『3ゾーンを結ぶ中心軸の魅力向上と市街地回遊性の強化』、今期目標を『3ゾーンの拠点形成による魅力向上と地域交流拠点の形成、およびゾーン縁辺部の暮らしやすい住環境の形成』、長期目標を『3ゾーンの魅力向上と地域交流拠点の強化、およびゾーン縁辺部の暮らしやすい住環境の形成促進によるネットワークの構築』として段階的な目標を設定し、将来ビジョンの達成を目指すものとする。

・第四次塩竈市長期総合計画（H13.4）において、将来ビジョンを「海・食・人が活きるまち　塩竈」と設定し、当地区は本市の個性が集積しており、「交流空間としての『中心市街地の再生』」を図るべき地区であると位置づけられている。

・塩竈市都市マスタープラン（H7.10）においては、将来ビジョンを「国際海洋文化都市」と設定し、区域北側が「中央地域：中心機能を育てる地域」、区域南側が「南部地域：高度利用を進める地域」と位置づけられている。

・旧中心市街地活性化基本計画（H11.3）においては、将来ビジョンを本計画の将来ビジョンでもある「海園都市・塩竈」と設定し、活性化のために中心軸の3ゾーンおよび縁辺部の「緑あふれる丘陵部居住ゾーン」「文教医療居住ゾーン」「賑わい居住ゾーン」「海辺の新居住ゾーン」として位置づけられている。

・仙塩広域都市マスタープラン（H21年度見直し予定）において、当地区は“再開発を導入することにより都市全体の機能の回復・向上に貢献することとなる市街地”である「再開発・一号市街地地区」に含まれ、更に“整備の導入により効果が特に大きく見込まれる地区”である「戦略的地区」として、第一期整備地区（上記課題における『地域中心核』）と塩釜駅周辺地区（同『地域交流拠点』）が設定されている。

目標を定量化する指標

指　標	単　位	定　義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
歩行者交通量	人/12h	地区内における歩行者交通量調査（4箇所）	回遊性の向上と活性化支援	7,783	H21	7,940	H26
駅周辺の満足度	%	駅周辺の満足度調査	拠点機能の強化によるまちのイメージアップ	36.1	H21	50.0	H26
観光バス入場台数	台/日	鹽竈神社およびマリンゲート塩釜への観光バス入場台数	拠点機能の強化によるまちのイメージアップ	86	H21	94	H26
まちなかの歩行環境の満足度	%	まちなかの歩行環境満足度調査	安全で安心して暮らせる住環境の形成	29.9	H21	46.0	H26

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
＜整備方針1＞拠点機能の強化によるまちのイメージアップ ・シンボルロードとして整備を続けていた都市計画道路北浜沢乙線の供用に併せて、沿道整備としてポケットパーク整備を行い、一体的な景観の向上を図る。また、景観法に基づく「景観行政団体」への移行を踏まえ景観計画策定に向けた調査を行い、歴史性を活かした統一性のある景観のまちづくりを推進する。 ・市の代表的な観光資源である鹽竈神社と国道45号を結ぶ路線について、関連事業による水路整備にあわせ拡幅整備を行い、観光バスのアクセス性を確保する。また、生活道路としての安全性や利便性の向上も図る。 ・老朽化した塩釜駅前交通広場を整備し、市の南の玄関口としての機能や利便性を向上させる。さらに本塩釜駅、塩釜駅、西塩釜駅に隣接する駐輪場を整備することで駅前の違法駐輪をなくし、魅力的な市の玄関口として整備を行うことで、利便性を向上させる ・西塩釜駅前周辺の環境整備を行なうことにより、駅利用者の利便をはかるとともに、周辺住民の憩いの場として整備し、周辺環境の向上を図る。 ・塩竈市公民館本町分室：併設する地方都市リノベーション推進施設（杉村惇美術館）と一体的な整備を行い、新たな交流や賑わいの創出を図る。	○宮町一号線他路線（宮町吉津線、神社参道線）（基幹事業／道路） ○塩釜駅前交通広場（基幹事業／道路） ○塩釜駅前自転車駐輪場（基幹事業／地域生活基盤施設） ○本塩釜駅前自転車駐輪場（基幹事業／地域生活基盤施設） ○本塩釜駅前駐車場（基幹事業/地域生活基盤施設） ○坂のまち塩竈憩いパーク事業 ○北浜沢乙線ポケットパーク（基幹事業／地域生活基盤施設） ○アクアゲートロシェルター整備事業（基幹事業／高質空間形成施設） ○（仮称）西塩竈遊歩道（基幹事業/地域生活基盤施設） ○塩竈市公民館本町分室改修事業（基幹事業／既存建造物活用事業） ○景観形成調査事業（提案事業／まちづくり活動推進事業） ○市民団体連携・回遊性向上支援事業（提案事業／まちづくり活動推進事業）
＜整備方針2＞回遊性やネットワークの強化 ・中心市街地3ゾーンに回遊性を持たせ、各拠点の観光の相乗効果を促進する。また、中心軸と地域交流拠点間の回遊性も強化し、更には、既存商店街における活性化までその効果を波及させることを目指すため、市民団体が事業主体となり、中心市街地の回遊性向上を目的として、塩竈の食や文化をテーマにした区域内のイベントやまちなか回遊を目的としたしかけづくり、調査・研究等をおこなうことにより、塩竈の魅力を市内外にPRすることで、多くのリピーターを生み出し継続的な誘客を図る。 ・本塩釜駅前交通広場（東口）が供用を開始したことで、既存の西口交通広場とあわせて交通結節点機能向上が期待される。今後、駅周辺の交流人口の拡大が予想されることから、国道45号整備に併せ、バリアフリー化を促進し、中心市街地の回遊性の向上を図る。 ・（仮称）西塩竈遊歩道は、明治20年12月、上野～塩竈間として東北で初めて開業し、塩竈の発展に大きく足跡を残した東北本線（旧塩竈線）の廃線敷きを利用した施設であり、その歴史や地域の埋もれた史跡を紹介するサイン、モニュメント等を設置し市民や来街者等の回遊性の向上を図る。	○海岸通一号線（基幹事業／道路） ○宮町一号線他路線（宮町吉津線、神社参道線）（基幹事業／道路） ○北浜沢乙線ポケットパーク（基幹事業／地域生活基盤施設） ○（仮称）西塩竈遊歩道（基幹事業/地域生活基盤施設） ○アクアゲートロシェルター整備事業（基幹事業／高質空間形成施設） ○市民団体連携・回遊性向上支援事業（提案事業／まちづくり活動推進事業）
＜整備方針3＞安全で安心して暮らせる住環境の形成 ・北浜沢乙線から国道45号に接する道路について誘導ブロック等の整備を行い、バリアフリーの強化を行う。 ・本塩釜駅、塩釜駅に隣接する駐輪場を整備することで駅前の違法駐輪をなくし、交通利便性を高め住環境の充実を図る。 ・西塩釜駅周辺及び近隣周辺の夜間の防犯対策を行なうことにより、安全性の向上を図るとともに、災害時の周辺住民の一時避難所としての機能の充実を図る。 ・市の防災基本計画において避難所に位置づけられている公民館について、エレベーターを設置し、高齢者や障害者といった災害弱者の安全を確保する。	○海岸通一号線（基幹事業／道路） ○塩釜駅前交通広場（基幹事業／道路） ○塩釜駅前自転車駐輪場（基幹事業／地域生活基盤施設） ○本塩釜駅前自転車駐輪場（基幹事業／地域生活基盤施設） ○坂のまち塩竈憩いパーク事業（基幹事業／地域生活基盤施設） ○（仮称）西塩竈遊歩道（基幹事業/地域生活基盤施設） ○地域防災拠点施設改修整備事業（提案事業／地域創造支援事業）

その他

○事業中の関連事業と連携したまちづくりについて

・塩釜港における北浜緑地護岸工事事業が現在進められており（宮城県）、事業にあわせた周辺環境整備を順次行っていく。
・梅の宮雨水幹線整備事業（塩竈市）にあわせ、鹽竈神社へのアクセス性を向上する整備を行う。
・国道45号塩竈市海岸通歩行環境改善事業（国）、海辺の賑わい地区土地区画整理事業（塩竈市：平成23年度完成予定）の進捗やグランドデザインにあわせた各種事業を行う。

○事業終了後の継続的なまちづくり活動（持続的なまちづくり活動）（住民参加プロセス）

事業終了後も引き続き、将来ビジョンの達成に向け長期の目標達成を目指し、継続したまちづくり交付金事業の活用も含め検討を行うものとする。なお、その検討にあたっては引き続き庁内検討組織および市民団体との懇談会を存続させ、官民協働のまちづくりを目指すものとする。

○交付期間中の計画の管理について（モニタリング）

交付期間中において各種の事業を円滑に進め、目標に向けて確実な効果をあげるために、庁内検討組織を今後も継続的に開催し、事業成果について評価や事業の進め方の改善等を行うためのモニタリング（事後評価調査（提案事業/市））を実施する。また、都市再生整備計画書や計画概要等を市のホームページで公開し、市民からメール等で意見の徴集を行うこととする。

（参考資料）指標設定根拠

指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
歩行者交通量	人/12h	地区内における歩行者交通量調査（4箇所）	回遊性の向上と活性化支援	7,783	H21	7,940	H26

指標の設定根拠

まちづくり交付金第1期事業や海辺の賑わいゾーン土地区画整理事業、その他関連事業により、地区内に賑わいが生まれつつある。第一期の事後評価として歩行者交通量を計測したところであり、今期（第二期）において同ポイントを計測することにより地域中心核（87ha）の回遊性がどう変化していくかを把握するための指標である。

従前値の算出根拠 実地計測

平成21年9月6日（日）に、地区内12時間の交通量を実地計測した。調査地点は、御釜神社前（計測結果：817人）、すずらん前（1,043人）、マリンゲート塩釜前（972人）、マリンロードしおかぜ（4,951人）の4地点で、これらの**合計7,783人**を従前値とする。

目標値の算出根拠

第1期中間モニタリング時（H19）、第1期事後評価時（H21）の交通量調査の結果を元に設定する。
「御釜神社前（H19からH21の減少率：-1.8%）」については、第2期で回遊性や利便性の向上を目的としている本町九号線を整備予定である。
「すずらん前（同：-36.8%）「マリンゲート塩釜前（同：+4.6%）」「しおかぜ前（-13.2%）」については、第1期で交通量の増加に資する整備がほぼ完了している、もしくは第2期で大幅な増加が見込める整備とは言い切れない。
↓
以上の理由により、「御釜神社前」におけるH19からH21の-1.8%をプラスに転化させ、この波及効果によりその他の地点も歩行者数の回遊性が向上することを目的とし、『**全体で+2%**』を目標値とする。

駅周辺の満足度	%	駅周辺の満足度調査	拠点機能の強化によるまちのｲﾒｰｼﾞｱｯﾌﾟ	36.1	H21	50.0	H26

指標の設定根拠

次期計画における位置づけとして、これまでの本塩釜駅という中心軸の核に加え、塩釜駅を地域交流拠点の核として整備を行う。塩釜駅周辺の満足度を測定することにより、地域交流拠点整備の成果を検証する。

従前値の算出根拠 アンケート調査

平成21年8月に実施した共同アンケートの問4-1②「よく利用する駅周辺の歩行環境の安全性・快適性」の結果である**36.1%（「満足している」5.3%、「どちらかといえば満足している」30.8%の合計）**を従前値とする。

目標値の算出根拠

どちらでもない27.4%の半数（13.7%）を「満足している」、「どちらかといえば満足している」に移すこと目標とし、36.1%（従前値）＋13.7%≒**50%**とする。

観光バス入場台数	台/日	鹽竈神社およびﾏﾘﾝｹﾞｰﾄ塩釜への観光ﾊﾞｽ入場台数	拠点機能の強化によるまちのｲﾒｰｼﾞｱｯﾌﾟ	86	H21	94	H26

指標の設定根拠

宮町一号線および神社参道線については、道路幅が狭く、観光バスが鹽竈神社の東参道を上る際に曲がりづらい状況となっている。この現状を今回の整備で改善することにより、「回遊性の向上と活性化」が見込まれる。また、次期計画においても地域中心核としてマリンゲート塩釜の拠点性を高めることから設定した。

従前値の算出根拠 実地計測

平成21年11月1日（日）の9:00～16:00に、鹽竈神社駐車場とマリンゲート塩釜駐車場において実地計測した。
計測結果の**鹽竈神社駐車場内21台とマリンゲート塩釜駐車場65台の合計86台**を従前値とする。

目標値の算出根拠

【根拠資料】 平成15年度及び平成18年度の「観光動態調査」（宮城県産業経済部）の調査地点である近隣の観光地松島海岸の値を参考に、目標値を設定する。（※宮城県における観光動態調査は、通常2年～4年に一度行われている。しかし、平成21年は実施していないため、直近の平成15年度と平成18年度の数値を使用することとした。）
【根拠資料による現状】 松島海岸において、「主な交通手段」のうち"貸切バス"の割合が、平成15年から平成18年にかけて9.1%下がっている。

【見込まれる整備効果等】 平成18年に「みやぎ観光プラン」（観光客の増加による経済効果を高めることを目標とし、短期で効果的な観光施策を行うとされている）が策定され、平成20年には「仙台・宮城ディスティネーションキャンペーン」が実施され、効果を上げている。
また、今回道路改築事業をはじめとした観光交流対策を実施することにより、観光客数は減少傾向から増加傾向に転じ、観光バス自体の台数も増えることを目的としている。
↓
よって、松島海岸の調査年度間の差分（-9.1%）を参考とし、塩竈市では"貸切バス"の割合を従前値より9%増加することを目標とし、**従前値86台×9%＝7.7台≒8台の"貸切バス"（観光バス）の増加**を目標値として設定する。

まちなかの歩行環境の満足度	%	まちなかの歩行環境満足度調査	安全で安心して暮らせる住環境の形成	29.9	H21	46.0	H26

指標の設定根拠

中心核および地域交流拠点の整備とともに、バリアフリーや拡幅などの道路・施設整備もすることから、都市再生整備区域内の歩行空間・環境についても成果を検証する。

従前値の算出根拠 アンケート調査

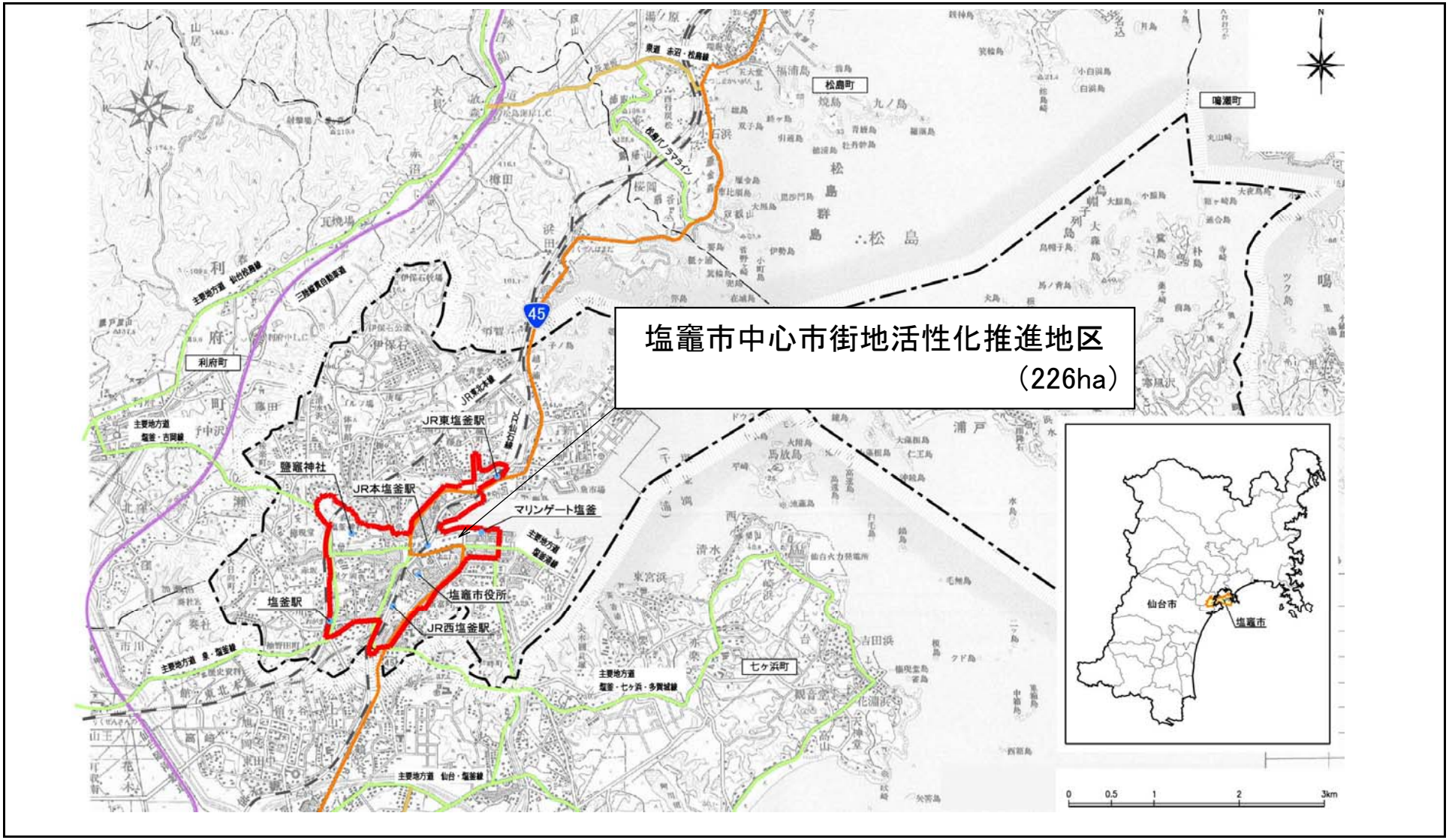
平成21年8月に実施した共同アンケートの問4-1⑤「まちなかの歩行環境について」、第2期都市再生整備計画区域（226ha）にかかる字名のみでクロス集計した結果**29.9%（「満足している」1.6%と「どちらかといえば満足している」28.3%の合計）**を従前値とする。

目標値の算出根拠

上記クロス集計結果の「どちらでもない」31.9%のうち半数の16.0%を「満足」に上げることを目標として**29.9%（従前値）+16.0% ≒ 46.0%** を目標値とする。

都市再生整備計画の区域

塩竈市中心市街地活性化推進地区（宮城県塩竈市）	面積	226 ha	区域	【全部地域】北浜1丁目、海岸通、尾島町、本町、南町、旭町、泉ヶ岡、石堂、香津町、佐浦町、白萩町 【一部地域】藤倉2丁目、藤倉3丁目、北浜2丁目、北浜3丁目、北浜4丁目、港町1丁目、港町2丁目、宮町、一森山、西町、赤坂、東玉川町、桜ヶ丘、錦町、花立町、新富町



塩竈市中心市街地活性化推進地区（宮城県塩竈市） 整備方針概要図

目標

大目標： 3ゾーンの拠点形成による魅力向上と地域交流拠点の形成、およびゾーン縁辺部の暮らしやすい住環境の形成　①都市景観の高質化によるイメージアップ
②回遊性の向上と活性化支援　③安全で安心して暮らせる住環境の形成

代表的な指標

歩行者交通量	（人/12h）	7783	（ 21年度）	→	7940	（ 26年度）
駅周辺の満足度	（ % ）	36.1	（ 21年度）	→	50.0	（ 26年度）
観光バス入場台数	（台/日）	86	（ 21年度）	→	94	（ 26年度）
まちなかの歩行環境の満足度	（ % ）	29.9	（ 21年度）	→	46.0	（ 26年度）

道路
：宮町一号線他路線
（宮町吉津線、神社参道線、
宮町二号線）

梅の宮雨水幹線改修工事（塩竈市）

門前市（市民団体）

道路
：海岸通一号線他路線
（北浜一丁目二十二号線）

市民祭（市民団体）

地域生活基盤施設
：坂のまち塩竈憩いパーク事業
・・・ポケットパーク

北浜緑地護岸工事
（宮城県）

収穫祭（塩竈市）
塩竈みなと祭（塩竈市）
塩竈の観光物産展（塩竈市）

賑わいあふれるみなとｵｱｼｽ支援事業（宮城県・塩竈市）

海辺の賑わい地区土地区画整理事業（塩竈市）

地域生活基盤施設
：本塩釜駅前自転車駐輪場

地域生活基盤施設
：本塩釜駅前駐車場

国道45号線整備事業
（国土交通省）

市内循環ﾊﾞｽ（しおナビ100円ﾊﾞｽ、
NEWしおナビ100円ﾊﾞｽ）／塩竈市

塩竈市観光情報板整備（塩竈市）

地域生活基盤施設
：北浜沢乙線ﾎﾟｹｯﾄﾊﾟｰｸ

既存建造物活用事業（高次都市施設）
：塩竈市公民館本町分室改修事業

地域創造支援事業
：地域防災拠点施設改修整備事業

道路
：塩釜駅前交通広場

地域生活基盤施設
：塩釜駅前自転車
駐輪場

泉塩釜線整備事業（宮城県）

高質空間形成施設
：ｱｸｱｹﾞｰﾄﾛｼｪﾙﾀｰ整備

既存建造物活用事業（地方都市リノベーション事業）：杉村惇美術館等整備事業

まちづくり活動推進事業
：中心市街地回遊性社会実験

地域生活基盤施設
：西塩竈遊歩道

「地域中心核」
「海辺の賑わいゾーン」
「歴史の香る環境型都心居住ゾーン」
「駅前賑わい業積ゾーン」
「中心軸」
「地域交流拠点」

JR東塩釜駅
JR本塩釜駅
JR西塩釜駅
JR塩釜駅
JR東北本線
JR仙石線
鹽竈神社
北浜沢乙線
マリンゲート塩釜
塩竈市役所
塩釜市魚市場
塩釜港
45

凡　例
・・・ 基幹事業
・・・ 提案事業
・・・ 関連事業

0　100　500　1,000m